政策評価シート【総括票】

施策の柱	１－１　豊かな自然を守り、はぐくむ

基本方針	市民がうるおいとやすらぎを感じることができる自然共生社会を目指して、生物多様性の確保に配慮しながら、豊かな緑と水辺の保全・活用や、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりを進めます。

担当局（区）	都市局　　環境局　　経済農政局

評価区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない

【評価の理由・説明】
　中間目標値を超えた指標は、「谷津田の保全活動等の参加者数」であり、谷津田保全協定の締結や自然観察会などの取組みを着実に進めていることが要因と考えられる。
　一方、「里山の保全活動参加者数」は、森林ボランティア団体の高齢化が進み、H23末時よりも増えているものの目標値には到達しなかったほか、「市内の花や緑は豊かだと感じる」や「市街化区域の緑地の割合」は、市民生活で目にすることが多い緑に係る事業に未達成なものが多く、指標の数値がH23末現状値と比較して現状維持もしくは未満となっている。また、「市内の海辺に魅力を感じる」や「１年間に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある」の海辺に関する指標は、稲毛海浜公園の利用者数は増えているものの、計画事業「稲毛海浜公園の改修」や「千葉中央港地区まちづくり推進」などのハード整備の進捗状況が「実施設計」や「工事」の段階であるため、特にあまり海辺を訪れたことのない市民の関心を高める状況には至っていないと考えられ、全体的に評価の向上につながっていない。

【今後の取組みの方向性】
　「豊かな自然を守り、はぐくむ」ため、これまで、様々な取組みを実施してきたところであり、特に、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりについては、これまで整備を進めてきた千葉中央港地区の旅客船さん橋、港湾緑地、ターミナル等の一部と稲毛海浜公園検見川地区の民間事業者による活性化施設が平成27年度末に完成し、供用開始しており、今後、これら施設を積極的・有効的に活用するとともに、周辺施設との連携、イベントの開催などを展開していくことにより、さらなる海辺の魅力向上を図っていく。また、多くの市民に海辺を訪れてもらうためには、これらの取組みを知ってもらうことが重要であるため、様々な機会を通じてPRを行っていく。
　谷津田や里山、緑などの保全・活用については、これまでの取組みを引き続き実施していくとともに、関連する成果指標の向上を目指すには、市民や事業者の理解・協力が必要不可欠であることから、各事業の魅力・意義などをイベントや広報等でPRするなど、活動の参加者・協力者を増やすための取組みを行う。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
　A：4．5点以上、 B：3．0点以上4．5点未満、 C：1．5点以上3．0点未満、 D：0点以上1．5点未満、 E：0点未満

生活実感・行動指標

（%）

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
1	市内の花や緑は豊かだと感じる	61.4	64.0	67.0	70.0	61.4			△	1
2	身近な水辺に親しみを感じる	46.5	48.0	49.0	50.0	46.7			△	1
5	市内の海辺に魅力を感じる	36.8	41.0	46.0	50.0	37.9			△	1
6	この１年間に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある	41.4	44.0	47.0	50.0	38.9			×	−1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
3	市街化区域内の緑地の割合(%)	10.3	10.5	10.7	11	10.2			×	−1
4	谷津田の保全活動等の参加者数(人)	409	440	470	500	519			◎	5
171	里山の保全活動参加者数(人)	111	200	400	600	150			△	1

平均点	1.0

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況 達成	進捗状況 未達成	主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
１－１－１	20	12	谷津田保全協定の締結や里山の保全は、計画内容どおり概ね達成。公園緑地の整備（都川水の里公園）は、計画どおり達成。
１－１－２	14	2	「稲毛海浜公園の改修」の検見川地区における民間による活性化施設整備並びに千葉中央港地区のさん橋・旅客船ターミナル等一部施設については、27年度末供用開始予定。海辺を訪れたことのない市民が一定程度存在するが、レッドブルエアレースの開催等により、本市海辺の認知度は高まってきている。